

## <つなぐ教室コラム> 「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト

### シンガポール日本人学校での3年間を振り返って

西尾美帆

#### 1 はじめに

日本国政府は、毎年、約500人もの教師を在外教育施設へと派遣している。日本国籍をもつ児童生徒が保護者に随伴して日本国外で生活をする際、日本と同等の教育を受けることができるようにするためである。私が在外教育施設について知ったのは、教員として働き始めてからである。しかし、近年の「グローバル化」「外国語活動」などを通してその存在を知ったり、教育現場や教職をあらゆる角度から見ることを通して在外教育施設派遣に興味を持ったりする学生がいる。よって、在外教育施設派遣を視野に入れている方へはもちろんのこと、在外教育施設で教育を受ける児童生徒及びその保護者へ、そして在外教育施設についてまだ何も知らない方へ向けても、私の経験したことや感じたことを伝えていかなければならないと考える。

#### 2 シンガポール日本人学校の特色について

大きく分けて、4つの特色を挙げる。

##### (1) 基礎学力定着・分かる授業づくりの取り組み

「漢字・計算オリンピック」を実施し、楽しみながら基礎学力を身に付けるような工夫をしている。教員集団は、日本同様、児童の実態を把握し、校内研究テーマを設定して弱点を克服するよう努めている。全校31学級の担任がそれぞれ年間に2時間以上の授業を相互に公開し、よりよい授業づくりに取り組み、基礎学力定着のための授業づくりを行った。



##### (2) 充実した英語教育



シンガポールの公用語は英語であり、様々な交流や体験が英語を通して行われる。また、児童生徒の国際性を豊かにするために、英語教育の充実に力を入れている。小学校1年生から週3時間、10名程度の少人数による習熟度別コースで実施されている。小学1年時から聞くこと、読むこと、描くこと、話すことの習得が同時に行われ、効率よく英語を身に付けることができる。小学1年生から英語検定を受験する児童が多くおり、保護者の英語教育に対する期待が高いことが分かる。英語科では、宗教や伝統文化、祭事についても英語で特別授業を行う。また、体育科の水泳、音楽科ではイメージ教育を実施している。

##### (3) ICT教育の強化

ICTに関するスキルアップを図る「プログラミング教育」、思考力を育てる為の「プログラミング的思考」に着目した教育実践を行っている。小学部低学年の場合はお絵かきソフトやタイピングソフトを用いた学習、中学年は、マウスやタイピングソフトを用いた学習、高学年は自分でプログラミングを行い、ロボットを動かす学習を行っている(2019年当時)。ま



た、各教科において学習の中で児童がプレゼンテーションを作成し発表することも日常的に行われている。

#### (4) 魅力あふれる学校行事

学習の成果を発表する音楽会、運動会、水泳記録会に加えて、生活科や社会科、総合的な学習の時間（シンガポール日本人学校では「探求科」という名称）の学習では国内の施設を訪問したり、現地の小学校との学校交流が行われたりしている。1年生はシンガポール ZOO での写生会、2年生はローカルマーケットを中心とした町探検、3年生はシンガポール一周や商業施設の見学、4年生は消防署・水道施設・博物館等の見学、5年生は現地の学生ボランティアとの交流キャンプ活動、6年生は近隣諸国への修学旅行が実施される。現地での校外学習を通して、児童は自分が滞在している国シンガポールへの理解を深め、同時に日本との違いに気付き、日本について深く考えることができる。



### 3 派遣者の生活について

私は配偶者と息子3人を同伴しての滞在であり、家族全員にとって有意義な3年間であった。派遣者の経験や年齢、同伴する家族の有無によって、感じ方は様々であると思うが、長期間、日本を離れることで、客観的に母国日本を捉え、異文化の良さを感じられたのは最大の利点であった。この視点こそが、今後、私が教育現場で伝えていくべきことだと考える。

### 4 在外教育施設の果たす役割

国外で生活する子ども達の多くは、保護者の仕事や都合で移動してきている。安心して生活するためには、安心して学校に通い、友達と遊び、勉強することが不可欠である。私自身、国外で生活してみて改めて、「学校」のありがたさ、大切さを身に染みて感じた。派遣先で子ども達が楽しく学校に通うことは、家族の喜びに直結している。日本人学校の教員は、優秀であるので、しっかりと保護者や児童生徒の願いを叶えることができる。私は、派遣前は鳥取県の教員としてできる限り努力し働いてきたつもりであるが、日本人学校で求められる資質と能力は想像以上に高いものであった。各都道府県から派遣された教員は、年齢を問わず実績や経験が豊富で、出身県の代表であるという責任を持ち教育活動に取り組んでいた。また、財団からの派遣教員は、柔軟な考え方で熱意と誠意をもって取り組んでいた。この教育集団の中で、全国の教育を知り、一緒に教育活動を作り上げたことは貴重な経験である。今後は、派遣経験を活かし、「世界で活躍する鳥取の子ども」を育てていきたい。

西尾美帆（鳥取市立河原第一小学校教諭）※「つなぐ教室」講師

